向陽介護便り

平成19年9月　第18号

発行人:㈲向陽介護システムズ
新宿区東五軒町1－12　青木ビル
TEL　03-3267-2015

敬老の日と竹取物語

ーお年寄りに敬意を表し、知識や人生経験を教えてもらおうー。　そんな集まりが戦後間もない１９４７年（昭和２２年）兵庫県の小さな村で開かれ、今日の「敬老の日」ができるきっかけになったとされています。　当時５０歳そこそこだった日本人の平均寿命はいまや、男性が７９歳、女性は８５歳にまで延び、世界でも類のない長寿大国になりました。

全国の１００歳以上のお年寄りの数は３万２２９５人で昨年のより３９００人増えたことになります。　高齢者名簿が初めて公表された１９６３年（昭和３８年）、１００歳以上のお年寄りはわずか１５３人でした。約５０年弱の間に１００歳以上のお年寄りは２００倍以上となり、将来は、２０２５年に１６万人、２０５０年には51万人と予想されています。

100歳以上の高齢者数

1963年(昭38)	153 人
1965年(昭40)	198 人
1975年(昭50)	548 人
1985年(昭60)	1,740 人
1993年(平5)	4,802 人
1998年(平10)	10,158 人
2003年(平15)	20,561 人
2007年(平19)	32,295 人

まさに、秦の始皇帝が不老不死の秘薬を求めて徐福を遣わした国に近づいているかもしれません。

昔話の「竹取物語」の中にも不老長寿の記述があります。竹取物語の舞台は、駿河の国、大綱の里（現在の静岡県富士市）に、竹かごを作って暮らしている老夫婦が竹薮で、赤ん坊を見つける場面から始まります。（良くご存知の通り）その赤ん坊は成長し、「かぐや姫」と呼ばれるようになり、噂を聞いた都の帝をはじめ様々な男性から求婚をされます。そして、物語後半、かぐや姫は月へと帰るわけですが、かぐや姫は帝の下を去るときに、帝に不老不死の秘薬を預けます。その後の帝は、生きる希望を失い　富士山にやってきて、不老不死の秘薬を焼きました。この古事から富士山は不老不死と結びつき、不死山＝不二山、富士山になったと言われています。

寿命が長くなるのは、勿論喜ぶべきことと思います。　ただ問題は、現在、そして未来の日本が、「長寿は幸福」と言いきれる社会であるかどうかです。１００歳以上の高齢者名簿がはじめて公表された１９６３年は、きしくも「老人福祉法」が制定された年でもあります。

この「老人福祉法」には、「老人は、多年にわたり社会の進展に寄与してきた者として、且つ、豊富な知識と経験を有する者として敬愛されるとともに、生きがいを持てる健全で安らかな生活を保証されるものとする（同法第２条）」と謳われています。

「敬老の日」が国民の祝日となって４１年、兵庫県多可郡野間谷村で始まった「としよりの日」から６０年、「長寿は幸福」と言いきれる社会に一歩でも近づくことを願っています。